

銀座街づくり会議

<http://www.ginza-machidukuri.jp>

〒104-0061 中央区 銀座4-6-1 銀座三和ビル3F

Tel: 03.3567.1535 / Fax: 03.3563.0236 / E-mail: info@ginza-machidukuri.jp

*メール配信をご希望の方はお知らせください*このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています*本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます*

銀座ではデジタルサイネージによる広告が増えてきています。最先端の技術を使った映像は、インパクトも強く多様な表現を可能にしてくれます。

一方で、動画画面の乱立は街並みを雑然とさせ、激しい動き、光の点滅は、落ち着いた街並みにとってはノイズとなってしまいます。

最先端技術の導入と、落ち着いた銀座らしい街並みとの両立をどう考えるかは、以前から銀座で大きな問題になっていました。設置要望がますます増加する中、銀座における「デジタルサイネージによる動画表現」について方向性を決めました。



デジタルサイネージについて、 銀座の考え方をまとめました。



銀座では、街に氾濫するデジタルサイネージと街並みとの関係について、検討を続けてきました。2013年1月にはまず、「銀座における音声のルール」を発表し、「ビジョンに伴う音声をやめていただくこと」、「音声のみの場合にも、音質とくに音量に注意を払うこと」、「ビジョン映像も動きの激しいものや光の点滅を避けること」をお願いしてきました。

次に、動画映像についてどう考えるか、議論を重ねてきました。

デジタルサイネージによる動画が送り出す大量の情報は、街ににぎわいを提供するよりも、ノイズを増やす場合が多いと認識しています。また、この傾向は世界中で進行しているため、どこの通りも同じような景観となり、街そのものの個性が衰退するとも考えられます。

さらに、動画画面で建物ファサードを構成するものも出てきましたが、この傾向が強まることを銀座は歓迎していません。動画に覆われた建物、デジタルサイネージを取り付けた建物が建ち並べば、街並みの風景は量販店のテレビ売り場さながらのようになってしまいます。

また、銀座は、お客様が楽しく快適に街を歩いているだけであることを大切にしています。銀座の街並みのよさは、ヒューマンスケールであることです。ヒューマンスケールを超える巨大なものは、街並みにとってふさわしくありません。

以上のような検討と議論を経て、このたびデジタルサイネージによる動画表現に対する考え方をまとめ、事業者のみなさんに、下記のようにお願いすることにしました。

デジタルサイネージによる 動画表現に対する考え方とお願い



■ 銀座の街並みに対し、ヒューマンスケールを超える大きさ(高さでいえばアイレベル、幅でいえば両手を広げたくらいを目安)の動画を表示(屋外設備のほか、室内から外に向けての映写も含む)することはやめてください。特に、交差点から見える風景に動画を掲出すること、2階以上の中高層階への設置は避けてください。

■ 動画そのものが、建物ファサードまたは店舗ファサードの圧倒的な印象を構成するようなデザインは好ましくありません。

■ 既存のものであっても、コンテンツについては新規コンテンツのたびごとに必ず事前協議をお願いします。銀座にふさわしくないと判断される内容は、変更をお願いする場合があります。

・動きが激しいもの、点滅が早いもの
・映像の輝度が高く、明るすぎるもの
・テレビCMのような、他媒体と同じ表現のもの
・商品やサービスの内容、価格などの具体的表現
・広告スポンサーを多数入れ、さまざまな情報を流すこと、など。

補足として、
・静止画であっても、コンテンツの事前確認はさせていただきます。

・ショーウィンドウ内や敷地内プラザ等での一時的な使用、入口付近におく館内案内等は、個別の協議とさせていただきます。

デジタルサイネージの技術は発展途上であり、銀座としては今後も検討を続けていきます。よりよい街並みづくりに、ご協力くださいますようお願いいたします。

この考え方については、銀座デザイン協議会事務局にて冊子を配布しております。
ホームページからもダウンロードできます。ぜひご意見をお寄せください。
<http://www.ginza-machidukuri.jp/>